

# 考えておきたい ペットのこと



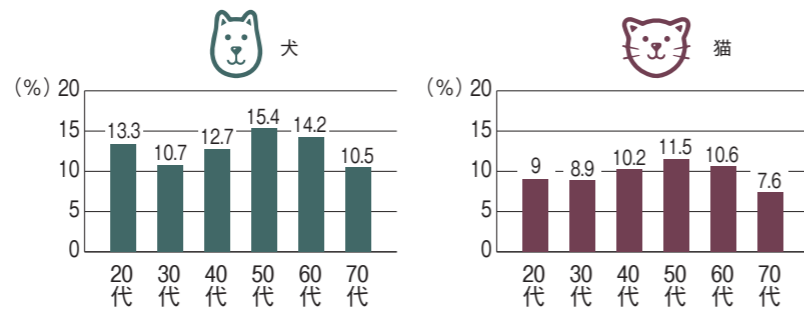
飼い主にとって癒しのペット。元気なときはいいけれど、年を重ねるにつれそのお世話も大変になっていきます。歩けなくなったら散歩はどうする？ 突然の入院時は？ 関係者が口をそろえて指摘するのが、「早めの備え」の重要性。ケアマネジャーとしてできることを考えます。  
まずはペットと高齢者の実態から。

## データで見るペットと高齢者

### 意外と高い70代の飼育率

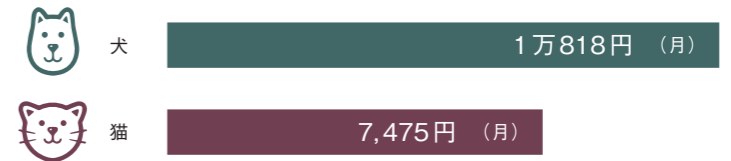
全国の飼育頭数は犬約892万頭、猫約953万頭。うち2割程度が60代以上の飼い主です。年代別に見ると、子育てや仕事が一段落する50代がもっとも多く、70代も犬の場合で10.5%、猫7.6%と高割合。飼い主亡き後問題が、社会的にも課題です。

年代別 飼育率の割合



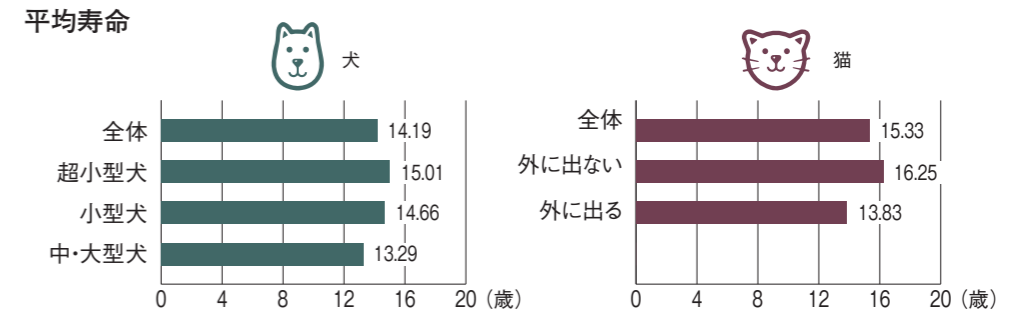
### 年間支出額は犬が約13万円、猫が約9万円

1カ月あたりの支出総額は、犬が1万818円、猫が7,475円。えさ代のほか、お財布に響くのが医療費。高齢化するほど治療費がかかるのも人間と同じです。ちなみに、おもちゃや衣類にかかる費用が多いのもシニア世代の特徴です。



### 平均寿命は犬が約14歳、猫が約15歳

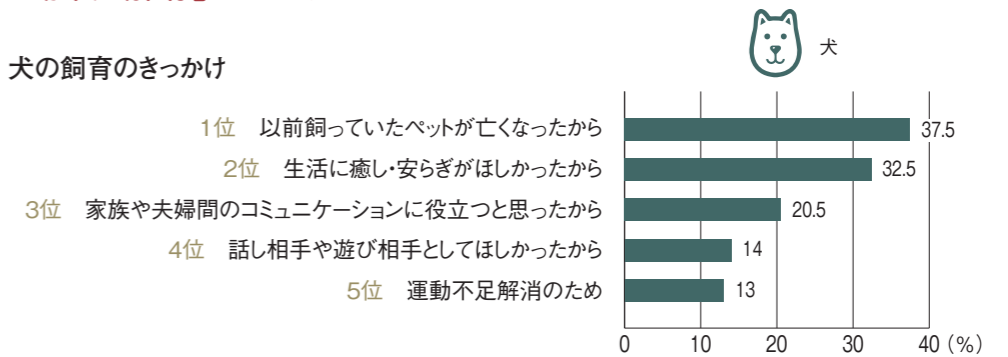
ペットフードや医療の充実により、30年前と比べると平均寿命はほぼ倍に。種類にもよりますが、犬は約14歳、猫は約15歳です。まずは利用者のペットの年齢を確認することから始めましょう。



### 飼育理由に飼い主の「運動不足解消」がランクイン

70代は飼育理由として「運動不足解消」が5位にランクイン。1日1回以上散歩を行う割合も、1回30分以上かける割合も70代がもっとも高くなっています。散歩中に骨折…がちよっと心配。

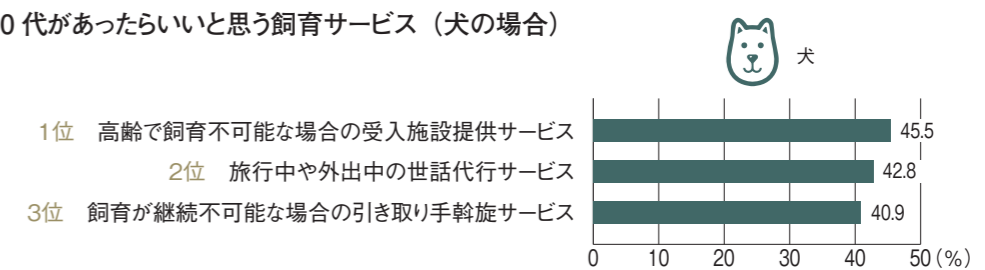
犬の飼育のきっかけ



### ほしいのは「飼育できなくなったときの施設」

ほしいサービスとして「飼育できなくなったときの施設」「引き取り手の斡旋」の2つがランクインしているのが70代ならではの。信託サービスも増えています。

70代があつたらいいと思う飼育サービス (犬の場合)



出典：2017年度「全国犬猫飼育実態調査」(一般社団法人ペットフード協会)